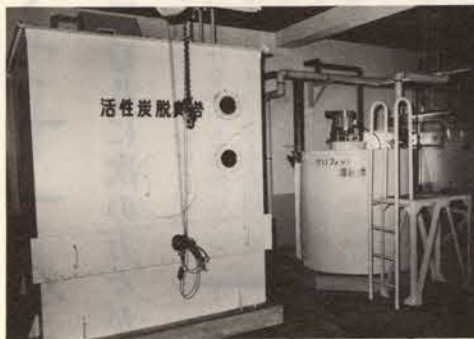




↑投入室：1度にバキューム車（汲取車）2台の投入が可能で、電動シャッターにより外部に臭気が漏れる心配はありません。また、投入口は、ステンレス製の足踏開閉式蓋で、臭気を防ぐ装置となっています。



活性炭脱臭塔

↑脱臭装置：三段式（水洗・アルカリ・活性炭）脱臭装置を完備しています。水洗脱臭塔は、投入室から発生した臭気を排臭ブローワーで吸引し、水洗により一部除去し、さらにアルカリ脱臭塔で脱臭し、最終脱臭を活性炭脱臭塔（左）により完全脱臭します。

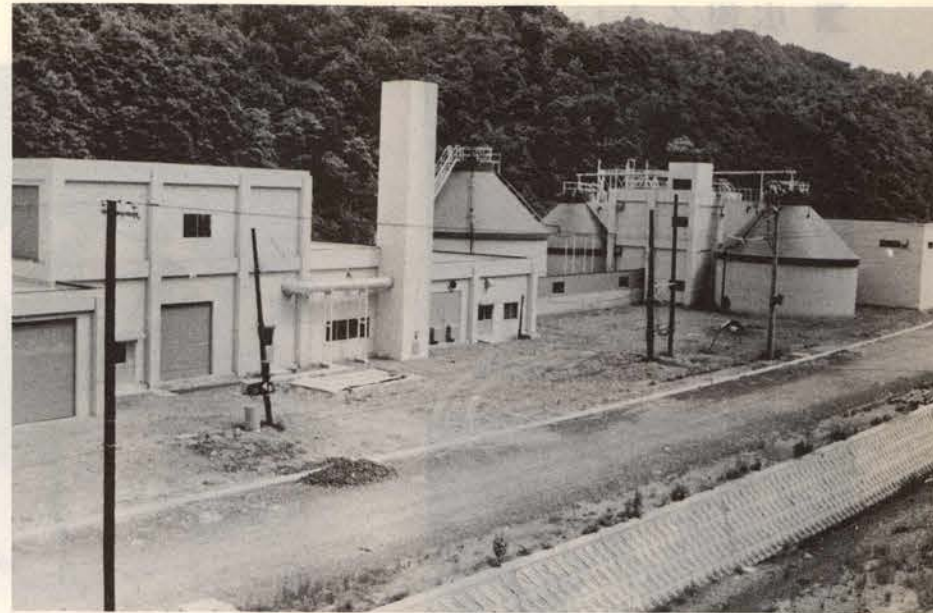
～清水となり放流されます～

〈留萌市外2町衛生センター〉

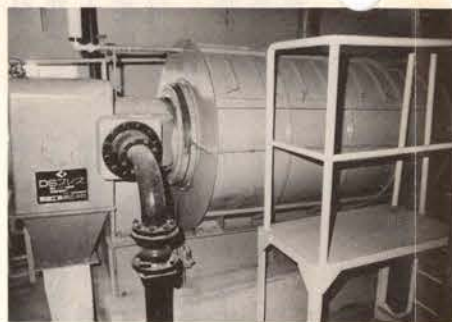
昭和五十年八月から大和田町八線左沢（潮静小学校から一キロ先）に建設されていた「留萌市外2町衛生センター」は、一月二十八日、テープカットを終え、試運転を開始しました。

この衛生センターは、総面積六千九百平方メートル、総事業費約十億円で一日四十キロの処理能力があります。また、一か月間滞留したし尿は、清水と同じ状態で留萌川に放流されるため、十分汚染には注意がはらわれています。

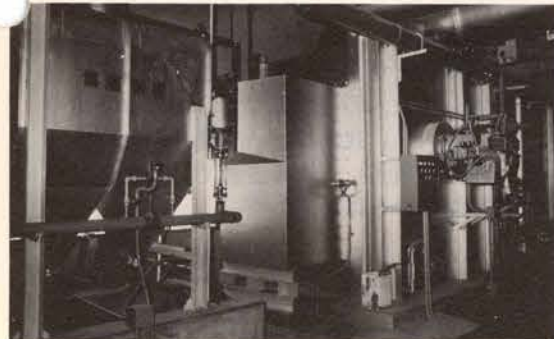
なお、貯溜槽などは地下にあるため、写真は、主な機械設備だけ掲載しました。



↑4月から本格的に運転を開始する「市外2町衛生センター」



↑前処理装置：DSプレスとも言われ、し尿と雑物を分離、さらに雑物を圧縮し、焼却炉に送られる。



↑汚泥焼却装置：し尿と分離された雑物や汚泥を焼却炉および乾燥機において処分する。また、大気汚染を防止するため集塵装置を備えている。



←沈澱槽：稀釈、曝気されたし尿は、スクリーンにより緩やかに上昇する際、汚泥や浮遊物を沈降、分離し上水を滅菌池に流出させる。

〈数値はBODを表わす〉
 BOD：水がどの程度汚れているかを示す基準で、細菌が水中の有機物を酸化し、分解させて浄化するのに消費される酸素の量をPPMで示したものである。水が汚れていれば有機物も多く、それだけ細菌分解に必要な酸素量もふえる。
 1%の水の中に、1%の酸素が必要となるときが1PPMである。

し尿が処理されるまでの工程

